

東日本大震災 関連情報（第 24 報）

平成 23 年 11 月 16 日
全国老人クラブ連合会

●東日本大震災に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

被災県内における交流・支援活動が行われています。

1. 県内南三陸町から避難している方々へ、地元の新米を贈る

〔宮城県登米市 南老連〕

登米市には隣接する南三陸町の方々の仮設住宅があります。「古くは当地から米を、南三陸町志津川からは魚をもらいあった仲」が、今回の協力につながりました。

（別添「毎日新聞」参照）

2. 県内富岡町、葛尾村から避難している 75 歳以上のお年寄りへ、地元の新米を贈る

〔福島県 三春町老連〕

「避難生活を余儀なくされている高齢者に、同じ高齢者として元気を贈りたい」と話し合い、地元産の新米を贈ることにしたものです。（別添「福島民友」参照）

3. スポーツ大会に、市内に避難している会員を招く

〔福島県 福島市老連〕

福島県老連では、避難している高齢者を県内老連が連携してサポートすることを推進しています。

このたび、福島市老連から市内に避難している会員をスポーツ大会に招待したいという申し出がありました。8月に震災後初めて開催された浜通り地区老連会長・事務局長会議に提案して、該当する飯館村老連、浪江町老連と相談の上、福島市内の仮設住宅で暮らす両老連の会員が参加することになりました。11月10日当日、各仮設住宅からバスを出して約70名が参加、団体戦と個人戦で交流を深めました。

4. 県内サポート老連が、大船渡市老連・陸前高田市老連の会員を奥州市に招いて交流

〔岩手県内老連〕

岩手県老連では、被災市町村老連をサポートする市町村老連を決めて支援活動を行っています。10月に行われた第1ブロックのサポート老連による交流支援では、「ひと時でもがれきの山を忘れられることはありがたい」と感謝されました。

（詳細は、別添「いわて老連だより 第50号〔抜粋〕」参照）

支援物資が喜ばれています。

5. 地区老連で障害者と共にスポーツ大会。兵庫県から湯たんぽをいただきました

〔宮城県石巻市 桃生町（ものうちょう）老連、兵庫県老連〕

桃生町老連では、10月25日に今年15回目になるスポーツ大会を開催することができました。今回は社協と相談のうえ、初めて障害者地域活動支援センターに通う人たちに特別参加してもらい、共に実施することにしました。当日は10クラブ180名の会員に加え、25名が特別参加して、玉入れやボール運びなどいくつかの種目に一緒に参加しました。会員からは「この感動は忘れない。毎年継続しましょう」という声があがり、なぜ早く気づかなかったのかと悔やまれるほどでした。

この大会の参加者はじめ仮設住宅に、兵庫県老連からいただいた湯たんぽ300個を配布しました。これから寒さに向かう時ですのでたいへん喜ばれました。ありがとうございました。（石巻市老連会長、桃生町老連会長 遠藤 謙治）

（なお、兵庫県老連の贈った湯たんぽについては、別添「日本海新聞」参照）

●支援活動

被災者（会員）との交流事業が行われています。

1. 福島県浪江町老連メンバーを鎌倉へ招待

〔神奈川県鎌倉市老連（みらいふる鎌倉）〕

月刊『全老連』11月号潮流コーナーにて紹介した、福島県浪江町老連を鎌倉へ招待する事業が、10月11・12日に行われました。この交流は首都圏のラジオや読売新聞でも報道されました。（詳細は、別添「神奈川新聞」参照）

2. 福島から三条市に避難していた人たちと、福島県南相馬市で再会

〔新潟県三条市 熟年いこいの会〕

熟年いこいの会では、震災後、三条市に一時避難していた人たちと交流していました。その一部は震災情報第7報（3月28日付）で紹介しています。その後、それぞれ福島に戻った30人と、熟年いこいの会メンバー30人が、南相馬市内にて仮設で再開したラーメン店において再会をはたしました。（別添「新潟日報」参照）

2. 姉妹町の縁で、福島県矢吹町老連に義援金を贈り、交流

 〔東京都 三鷹市老連〕

三鷹市と矢吹町は40年以上にわたる姉妹町であり、老人クラブ同士の交流も実施していることから、市老連では義援金を直接贈呈して交流することにしました。11月7日に矢吹町老連11名、三鷹市老連18名が福島県石川町の温泉に集い、5年ぶりの交流会を開催しました。交流会には矢吹町長が出席、三鷹市長からもメッセージが託されました。なお、三鷹市老連は総勢83名で福島を訪れました。